

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・**最終**)

天応中学校区 校番 22 学校名 天応小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	資質・能力を育て、確かな学力の向上を図る(探究の過程を通して)	基礎・基本の徹底と豊かな対話の場の構築(学力向上) 主体的に学ぶ土台の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト(学期末を含む)の到達得点平均85%以上の児童の割合(目標値80%) 国語(89, 94, 83, 84, 83, 58, 92)全体 83.3% 算数(89, 94, 76, 79, 77, 34, 88)全体 76.7% 全体的に算数が苦手な傾向がある。 ・探究的な学習について継続的に理論研を行い、全学年で単元開発を行うことができた。 ・児童アンケートにおいて、「授業では『めあて』にそったふり返りをしている」について肯定的な評価をした児童の割合は98%、「ふり返りを次の学習に生かしている」については99%であった。各学年に応じたふり返りシートを作成し、単元の目標や評価の観点を示して意識させたことで、自分の学びをふり返り、学びを深めようとしている児童が増えてきたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能に課題がある場合は、どこにつまずいているのかをしっかりと把握し、放課後等の補充学習を継続的に行い、粘り強く指導を続ける。 ・思考・判断・表現については、毎時間の授業で思考の場を適切に設定し、交流することにより、力を伸ばしていけるようにする。 ・課題が大きい学年には、学力定着の時間を設け、全職員が協力して個別指導に当たる。 ・単元構想シートを共有し、縦の整合性を図る。 ・ふり返りシートを書く際の手引きの作成にも着手した。今後は、手引きの系統性を考え精査していきたい。
**	自立し、自律につながる生活基盤の確立	状況に応じたセルフコントロール能力の発揮	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の命は自分で守る」ようにしたいと思っている児童の肯定的評価の割合が、100%であった。その要因として、授業のみならず、朝会等で繰り返し指導した結果、児童に意識が定着したと考えられる。今後も引き続き、授業などで学年に応じて、命の大切さについて学ぶ機会を設けていく必要があると考える。 ・iPadについて、大切に使い、正しくつかっている児童の肯定的評価の割合が、99%であった。その要因として、継続して指導した結果、児童の意識が高まったと思われる。今後も、情報モラルの危険性を理解させる機会を設け、指導していく必要がある。 ・時間を決めてメディアを使っている児童の割合が91%であった。情報機器を使用する機会が増えると考えられるため、引き続き時間を決めてメディアを使うことができるよう、指導していくことが必要だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の計画的な実施により、学年に応じて、より具体的に思考できる場面を設定し、児童がより自分事として捉えられるような授業の工夫を、継続的に行う必要がある。 ・学期始め等、定期的に指導の機会を設けるとともに、学年に応じた情報モラル教育を行う。 ・元気貯金チャレンジの定期的な実施により、意識を高めていく。
*	誰もが安全で安心して学べる教育環境の確保	心豊かで社会性を身に付けた児童の育成 教育の質の向上と生活のバランスがとれた働き方の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・14人中、養護教諭1人が児童と向き合う時間が確保されていないと思っている。今年度は、教職員の研修の中でも児童と向き合う時間について取り上げた。その他の教職員は、確保されていると考えている。 ・調査人数14名の4月から1月までの月ごと140コマのうち、30コマ(のべ30人)で時間外在校時間が月45時間を超えている。昨年度同時期より4コマ増加しているが、4, 5, 6, 10月以外は、0又は1名のみが45時間を超えるという状況である。各自が意識しながら行動できてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と向き合う時間の確保ができるように学校全体で引き続き努めていく。今後も時間の使い方について、教職員間の状況を互いに参考にしていけるような機会をつくっていく。 ・今年度は多くの職員が1学期はじめの3ヶ月で45時間を超えてしまったので、次年度は年度当初を気をつけられるようにしていきたい。そのために、職員が今年度と比べながら行動できるようにしていきたい。